



## スポーツを楽しむ

～車いすバスケットボール体験を通して学ぶ（6年）～

今週、6年生が車いすバスケットボールを体験しました。一般社団法人フォースタートから、実際に自らも障害があり、車いすバスケットボールのチームで活躍されている選手3名に講師に来ていただきました。子どもたちが体験できるよう、車いすを10数台持ってきてくださりました。テーマは「車いすバスケットボールの体験を通して、障害理解を深める」でした。

競技用の車いすは、日常用とは少し形状が異なっています。すぐに目につくのがタイヤがついている角度です。正面から見ると下側が大きく外に広がっていて、タイヤが「ハ」の字のように見えます。バランスをとってターンがしやすいようにするためだそうです。他にも後ろにも小さなタイヤがついていたり、車いすの利用者が運びやすいように後部に持ち手がついていました。

さて、実際の子どもたちの体験です。はじめは「緊張」、次は「あれっ、むずかしいなあ」、そして体験を進めていくと「楽しい～！！」という様子で全身で楽しさを表現していました。

初めて見る形状の車いすに恐る恐る乗り、まずは、直進とターンの練習です。ゆっくりから徐々にスピードも上がり、中にはいきなり急ターンしてみる子もいました。次は、鬼ごっこです。バスケットコート一面の広さに鬼役の子どもが10数人、捕まえる相手はたった一人の選手でしたが、これがなかなか捕まりません。さすがは、選手のみなさんです。何度か捕まえることもできましたが、急カーブ、急ターンで子どもたちの間をすごいスピードですり抜けていきました。役割を交代してやってみたら、鬼役の選手は一人だけですが、次々にアウトにしていきました。

そして、いよいよ実戦です。1組対2組で、各チーム1人の選手が助っ人に入り、6対6のゲームを行いました。シュートはもちろん、座った状態でパスしたり、受けたりするのは、予想以上に難しそうでした。床に落ちたボールを拾うことすら意外と難しそうでした。それでも子どもたちからは笑顔がはじけ、大きな歓声があがりました。たくさん集まって、にぎやかに楽しんだ今年一番の笑顔だったような気がします。金楽寺の子どもたちの勢いを感じました。最後に車いすについての学習も行い、「障害者も健常者も同じなんだ」ということを肌で感じ、「スポーツを楽しむ」ことを選手のみなさんや仲間たちと共有できた素敵な時間でした。

<子どもたちの学び(感想)>紙面の都合上、一部を紹介します。ひらがなを漢字表記に直しているところもあります。

車いすに乗っていたとしても楽しむことができるということ学びました。

どんな人でも好きなことを他の人と同じように楽しんでいくことができる社会になっていることに感動しました。

体の不自由な人と楽しく接するには、体の不自由な人の気持ちになって一緒に考える事が大事だと考えました。

世の中には目が見えなかったり、耳が聞こえなかったりする人がいるけど、そんなの関係なしに仲良くなったり、一緒に話したりしたいです。

人は障害があってもなくても人はみんな平等ということが改めて実感できました。

やってみるとちょっとだけ難しかったです。でも、車いすバスケをやっている人たちはすごくなめらかで、とてもすごかったです。

自分は車いすがなくても生活できるけれど、車いすに乗っている人たちともつながれると思った。いろいろな人たちと交流したいと思った。

はじめて夢だったバスケ用の車いすに乗ったらすごく速く動き出したし、すごい勢いで回りました。

障害者も障害者じゃない人も平等に楽しめる世界ができたらいいなと思いました。